

「ありがた」が決まると、
「やりかた」が見えてきます。

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2401号
(2010年5月26日発行)より

しばらく前のことになりますが、ある中学校にまねかれて、授業をさせていただきました。

なかに、ひとり、わざとまぜつかえすような発言や態度をとる男の子がいました。

実は、こういうときって、私は、わくわくしちゃうのです。だって、あちらから、かかわってきてくれるのですからね。こちらも、向き合いがいがあるというものです♪

というわけで、私が何をしたか。その子の発言や態度のいいところを、徹底的に見つけ出して、引き出していったのです。

ものごとには、すべて両面があります。ネガティブな見かたのうらには、必ず、ポジティブな見かたが隠れています。それを、あたかも「重箱の隅をつつくように」見つけていったわけです。(笑)

このとき大切なことは、相手をおさえようと、権威的にならないことです。もちろん、顔色をうかがうかのように、卑屈になってもいけません。真正面から向かうのです。楽しみながらやるのです。

授業の終わり近く、彼はとうとう言いました。「どうして、そんなに何でも いい方にとっちゃうんだよ！」

その言いかたが、なんだかだだっ子みたいだったので、こころのなかで、思わず笑ってしまいました。

「かわいいなああ♪」

よく、「ひとは自分の鏡」と言われます。

自分の否定しているところが相手に投影されて、見える。それもひとつ、真実だと思います。

でも、私は、こういう見かたもあるのではないかと思います。「好ましいと思えない相手に、どのようにたいするか」とおして、自分自身のありがたが、問われているのではないかと。

否定的な対応をしてくる相手にたいして、こちらも同じ態度をとってしまったら、よく、「相手がこうするから、自分もこうするのだ」と言うひとがいますが、結局のところ、自分が見下している、その相手と、自分も同じレベルということになってしま

います。

かといって、気をつかえばつかうほど、相手は、「くみしやすし」と見て、さらに高圧的になってくるかもしれません。

適当にやりすごせば…と思っても、やはりストレスはたまります。

何が正解ということは、ケースバイケースであり、言えないと思います。そういう体験をすることで、さらに成長するチャンスをあたえられているのだという見かたをすれば、余計な口出しも無用ということになるでしょう。

だからこそ、「ありがた」が大切になるのだと思います。「ありがた」とは、「どんな自分を生きたいか」です。

「こんなとき、『かっこいい』と思える態度は、どんなだろう」

「よくやったと、誇りに思える対応は、どんなだろう」

「思わずあこがれてしまう、ふるまいかたは、どんなだろう」

それを、自分が実践すればいいだけなのです。そうすれば、こころは安定し、また、ストレスもたまりません。

それどころか、自分のことを、もっともっと好きになっていくでしょう。

ところで、くだんの中学生にたいする私の対応は、どんなありがただったでしょう。「なんでも楽しんでしまう」ということだったのです。

「わー、わざと反抗的な態度だー。おもしろーい」(ええ、もちろん、口には出しませんよ♪)「よーし、この場を、とことん楽しんでじゃえ！」

そして思いついたのが、「徹底的に、相手のいいところを見つける」ということだったのです。どんな結果がくるか、わかりませんでした。その時点で、何がきても、OKの私がいたのです。

「ありがた」が決まると、「やりかた」が見えてきます。そして、ありがたはひとつですが、やりかたは無数にあるのです。

ひととのかかわりで困ったとき、迷ったときは、どうぞ、いつでもそこに還ってみてください。こたえは、必ずあります。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、**2003年11月1日**創刊。**2010年5月、2400号**達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>